

## ガイドイングに関する渡航先国の法的規制について

法的規制	国名	法的規制の有無・具体的規制事項
国として公式に法的規制あり	スペイン	自治州単位のシステムだがほぼ全土で規制。労働許可・国家資格ライセンス必要。外国人が観光目的で行動をする場合、入場観光でLG(ローカル)手配が必要。現地ガイドから摘発される事例多し。散策案内でも厳しい(ミハス・ロンダ等)。現行では、空港・駅へのトランスファーおよびナイトツアーなどではTCのみ可。
	ポルトガル	全域でのライセンスガイドの同行が原則必要。空港到着時の迎いは、コーチが必要なグループ(FITを含む)はライセンスガイドが必要。セダン、バン利用の際はグループとみなされないため規制は無い。ただし、空港出発時の送りはライセンスガイドの対応が必要。
	フランス	車中での案内も含め全ての団体の入場・下車観光にはLGの手配必要。パリ及び近郊観光では特に厳しく、ルーブル・ベルサイユ・オルセー等の公立美術館ではライセンス提示義務付け、説明可能人数上限有。モンサンミッシェルは最近厳しい。ロワール城内ガイドも厳しいので到着前案内、着後自由観光。但し地方(ニース・モナコ・プロヴァンス周遊等)はLGの人数に限度があることから緩やか。
	(シャモニー)	原則的にはシャモニー周辺地域での特にハイキング、及びスキーにはライセンスガイドが必要。但し、全てのレベルに於いて(初心者コース～上級コース)適応されるか現時点では曖昧な点もあり検討事項となっている。ゴルフ場付近の散歩は必要としません。
	ギリシャ	特に遺跡、博物館等では取り締まり厳しい。車窓観光でも必要。したがって国内周遊の場合はスルーガイド手配必須だが、アシスタントを代行させ、スポットにLG手配の場合有。
	イタリア	観光箇所にて説明が不要であれば手配不要だが、説明が必要な場合は手配必須。但し、ただの会話か説明なのか判断する事が警官にはできない場合が殆どなので、手配時に注意必要。困難な為寺院などで説明難しい場所は入場前にLG説明、以後移動観光のみ。スペイン階段単案内のみで違反切符事例有、地方都市でも厳しくフィレンツェ、ボンペイ、ペローナ、ピサ、シエナ、アッシジなど取締り警察聴取事例有。散策でも観光と判断されるケース有、イヤフォン等によるご案内(特に車中の案内)については近年規制緩やか。
	オーストリア	基本的には国家試験に合格した者のみの免許制。地方都市では緩やかな場合もあるが、特にウイーン(シェーンブルン宮殿、国立歌劇場)メルク修道院、楽友教会、ザルツブルグ、チロルなどが厳しく実際にTCに罰金が科せられた事例あり。又、チロル地方におけるハイキング・トレッキング・スキーのガイドも免許制の業務
イギリス	施設(入場箇所)によって3通りに区分される。①ライセンスガイドの同行が必須、②入場のみでは不要だが施設内特定地域見学の場合は必要、③不要、②や③の入場箇所でもライセンスガイド同行により優先入場、閉鎖箇所見学などの特典がある場合が多い。(大英博物館等) ①はロンドン塔・国会議事堂・ウエストミンスター寺院など	
国でなく州・地域・施設で公的規制有	スロバキア	ブラチスラヴァでは観光グループに対して市警察局が、ガイドライセンスの所有の有無を問うことがある。ガイドライセンスは登録番号付きのバッジの形でブラチスラヴァ市によって発行されており、それを身につけていないガイドは警察につかまる可能性あり。ただし、その他の地方都市ではこのような規制はない。
	チェコ	プラハ城はガイドライセンスの提示が求められる。ライセンスが無い場合は案内ができない。また、プラハ市内(プラハ旧市街、カレル橋、ユダヤ人街)、チェスキークルムロフ市内もライセンスなしのガイドによる案内は市の条例によって禁じられている。フルボカ城、チェスキークルムロフ城、コノピシュチェ城、チェスキーシュテンベルク城、カルルシュティン城、チェスキークルムロフ城に関しては、ライセンスが無い場合はガイドの分の入城券の購入が求められる。入城自体が拒否されることはない。
	スカンジナビア諸国	スウェーデン、ノルウェー、デンマークではライセンスが必要。ストックホルム市庁舎は公認ガイド同行が必要。フィンランドに関しては、地域によりガイドライセンスを発行しているところもあるが、ガイドをするのにライセンスの有無は関係ない。スオメンリンナなど一部特別なサイトは公認ガイドが必要。
	スロベニア	①スルーガイド付随の義務はなし。②スロベニア観光局が認可する特定都市/地域に限り、個人/団体に関わらず、観光案内を必要とする場合にはローカルライセンスガイドの雇用が義務付けられている。＜通常のGRPに含まれる訪問都市に関する規定＞リュブリャナ：ライセンスガイドの雇用は法律で義務付けられている。ブレッド：現在、ライセンスガイドの義務付けはないが、近々(2012年9月/国会開催時)ライセンスガイド雇用の義務が生じる予定。ポストイナ鍾乳洞：ライセンスガイドの雇用は法律で義務付けられている(既に入場料にガイドツアーが含まれている)
	クロアチア	スルーエスコート：法律上、ギリシャやスペイン同様に、元来バスの国籍と乗客が異なる団体が纏まってチャーターバスに乗車し、国内を走っているだけでも、クロアチア国籍を所持し権限を持ったエスコートが同行しなければならない。
	ハンガリー	国家試験に合格した者のみの免許制。ブタペストの国会議事堂をはじめ、ヘレンド工房・博物館、パンノンハルマ修道院などはSPOT GUIDE同行が必須。漁夫の砦、マーチャーシー教会、王宮、エステルゴム大聖堂などもLICENSE GUIDE 同行が必須。ドナウバントの3都市(エステルゴム、ヴィシュグラート、セントンドレ)も厳しい。
	ドイツ	全国共通のガイドライセンス無し。ベルリン/ベルガモンなど、市が運営している箇所では館内で案内が必要な場合、別途ガイドング料が必要となる。また、ドレスデンの市が運営している入場箇所(アルテマイスター、新緑の丸天井など)館内での案内にはライセンス料が別途必要。
特に規制なし	スイス	一般的なパッケージツアーでご案内している観光箇所(オフィシャルガイドがいる入場箇所を除く)やスイス国内のハイキングに於いては法的規制はなく労働許可があればライセンスガイド不要。但し、登山や氷河スキーなど高度な技術や経験が必要なものは地元ライセンスガイドが必要。
	ベネルックス3国	ライセンス不要